

VISION OJ140 創立140周年 2024年度を望み見て	大阪女学院が育もうとする学生・生徒像	*キリスト教に基づく愛と奉仕を実践する人 *自由で主体的な学びの中から物事の本質を見つめ、進むべき道を選ぶことができる人。 *英語力を基礎に幅広い教養と公正な判断力を身に付け、自律的・主体的に行動できる人。 *性別の役割にとらわれずに多様な可能性を探し求め、リーダーシップを覚えて、女性の尊厳の確立に努める人 *社会の課題に関心をもち、世界、日本、地域、人に仕える人。	望み見る大阪女学院の姿 140周年・2024年度の学院運営像	中学校から大学院までキリスト教を基盤に全人格を育む女子・女性の教育機関
---	---------------------------	--	--	-------------------------------------

大阪女学院 第Ⅲ期中期計画 (2020~2024年度)

No.	VISION OJ 140に掲げる運営の姿	テーマ(項目)	目標	取組み内容(行動計画)	担当	到達目標					関連項目
						2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
1	UC(注④)の運営像(2024年度)	教育内容の充実 教職員の養成	グローバル化が一層進展する今後においても、社会のさまざまな課題や問題を自分の問題としてとらえ、よりよき社会の構築に貢献できる女性の育成	本学の教育の3本柱である、キリスト教教育、人権教育、英語教育に加えて、大学の専門教育の充実 本学の知的財産であるコンテンツベースの英語教育の充実・発展	UC運営会議 カリキュラム委員会 キリスト教委員会 人権教育委員会 英語教育委員会	現行のカリキュラムのレビュー ・短期大学の英語教育の展開方法の検討 ・スタートレベルに応じた英語力育成とその成果の測定 ・各学年の到達目標の設定と学生による現在の確認 ・到達目標の測定 ・成績ルーブリックの見直しと検討(成績の標準化) ・専門教育3000番台での専門性と英語力育成の充実 ・人権教育及び授業科目の見直し ・人権教育における外部団体との連携 ・留学生の学習課題の把握と対応 ・学習困難者の把握と対応 教育の質保証にむけて 学習成果の把握	カリキュラム進捗状況 確認 教育の質保証確認 学習成果の可視化	カリキュラム問題点整理と 対応 教育の質保証資料作成 学習成果の可視化資料	大学認証評価準備 自己点検 教育の質保証評価 学習成果の可視化評価	大学認証評価実施年	
			地域社会、地域連携プラットフォーム等との連携	本学が所属する地域連携プラットフォームの核となる大学コンソーシアム大阪の中期計画に係る単位互換、インターンシップ、グローバル人材育成、学生主体の地域連携促進、国際イベントへの学生参加、内なる国際化の促進、SD研修の推進に積極的に参画する。	教務委員会 地域連携委員会 国際交流委員会 FD/SD委員会	単位互換科目提供と、卒業認定科目としての 送出し継続/台湾とのシンポジウム参画/国際 イベントへの学生派遣/SD研修企画	プラットフォームによるインター ンシップ参加学生増、同海外学 生派遣、留学生の参画/国際イ ンターネットへの学生派遣等	20/21年度の成果の把握 及び検討	20/21年度の成果の評価	次年度へ向けての課題整理	
			共通テストで求められる「思考力」「判断力」「表現力」を備えている現行カリキュラムの一層の充実	中等教育での教育実践・成果に関する研究やFDの実施	FD/SD委員会	評価についてのFD/SD 新入試制度FD/SD	中等教育の教育について のFD/SD	前年度の成果から判断			
		(2)英語運用能力の伸長と教養教育との融合を深化させる中で人格を育む教育の展開	(1)の目標課題に英語をツールとして取り組める女性の育成	入学者の英語習熟度に応じた英語教育の展開 資格試験以外での学生の英語力の測定(論文作成能力、プレゼン能力、コミュニケーション能力)	UC運営会議 英語教育委員会	入学者の英語習熟度の把握 資格試験以外の英語力測定検討 学習サポートの充実	入学者の英語習熟度の伸長 測定・評価 学習サポートの充実				
			さまざまなバックグラウンドを持つ人々と協働できる英語力の育成	英語で展開する授業の拡充 授業アンケートを参考にした授業改善	UC運営会議	ワークショップの充実 授業アンケートの把握	ワークショップの充実 授業改善の検討	授業改善の提案 授業改善の実施	授業改善の評価		
		(3)2024年度の学校の全体像 短期大学:1学年100名 大学:1学年150名 全学学生数:800名+大学院生	学生支援・学生募集	日本人学生、外国にルーツを持つ学生、留学生が共に学ぶ教育共同体の形成	一人ひとりの学生が「私らしく」学べる学習環境の構築	UC運営会議 アドミッションセンター 教務委員会 生活サポート委員会 募集・広報委員会	留学生の学習課題の把握 学習困難者状況把握	留学生の学習課題整理と対応 学習困難者状況整理と対応	留学生の学習課題評価 学習困難者状況対応評価		
(4)広報のコンセプト 「キリスト教教育、人権教育、英語教育を柱に据えて、自己認識と社会認識を養うとともに、社会や世界に積極的に関わる意欲を喚起し、確かな認識によって問題意識を育み、問題の解決に向け、世界の様々な場で人々と協働する女性を育てる大学」	学生募集	キリスト教を基盤とし、なんらかの方法で社会に貢献できる女性の育成という理念に共感できる受験者数の増加 ダイバーシティ、インクルージョンという考えを育める受験生の確保	紙媒体と動的媒体(HP/SNS)との融合によって、本学の教育内容及び目標とする女性の育成の伝達・周知	UC運営会議 アドミッションセンター 募集・広報委員会	HP改革 SNS等の活用 大学院OC実施	積極的な情報発信					
2	JS(注⑤)の運営像(2024年度)	教育内容の充実 教職員の養成	(1)世界を見つめ生き生きと社会で活躍する女性を育む学校	すべての教育活動を統合するプログラムの構築 6年一貫教育による学力伸長・生徒の主体性を育む 授業・評価方法の構築 新学習指導要領に基づいた教育内容の充実 海外大学進学のための進路サポートの強化 IBワークショップへの教職 IB・MYP(注①)の導入の検討	JS責任者会議 教務・進路各委員会 IB委員会	行事整備・改革 カリキュラム・授業・評価改革 観点別評価の構築 進路指導方針の見直し 海外進路指導の開発推進 IB教育の推進	中学修学旅行改革 中学 観点別評価のさらなる充実 新指導要領全面実施 IBをはじめ、特色ある大学との推薦枠提携の推進 高1全員にPC持たせる MYP導入協議	高校 観点別評価実施① 新指導要領漸次実施 PC漸次高校生全員持ち MYP導入準備	高校 観点別評価実施② 新指導要領完全実施 PC中学生全員持ち MYP認定準備	高校観点別評価完全実施 新指導要領完全実施 PC中学生全員持ち MYP認定	行事整備・改革 完成
			(2)女性の視点での教育の展開	Vision OJ140に基づく、生徒への人格教育の推進と教職員の 人権感覚の向上	教職員対象の研修、IBワークショップへの教職員派遣の継続	JS責任者会議	IB研修専任教員全員派遣 学院全体研修の充実(中高については授業・評価・行事改革/組織運営・選挙制度について話し合う機会として)				
		人事・運営体制	(3)2024年度の学校の全体像 中学1学年4クラス150名 高校1学年7クラス240名 全校生徒1170名	現行の教職員研修日制度の廃止と代替制度の構築 学年担任制の導入 適正なクラス数と専任教員数とのバランスの構築 教職員の会議体運営方法の点検見直し	学年担任制の導入 適正なクラス数と専任教員数とのバランスの構築 教職員の会議体運営方法の点検見直し	JS責任者会議 支援教育委員会 保健・生活指導各委員会	学年担任制の検討 研修日制度見直し クラブ活動のあり方についての見直し	会議体運営の見直し ・運営委員会の活性化 ・各会議の時間短縮 運営方法の見直し	トータル視点での企画運営 ・教科会の活性化 ・各委員会の連携 ・会議のペーパーレス化	特別常勤講師数減一なし	
			今後の学校像	JS Vision OJ140とIBの教育理念に基づく教育内容の見直し・改革 行事、授業、評価、クラブ活動などのあらゆる教育内容の点検見直し 学力・学習習慣の確立、生徒の主体的取り組みのための授業時間確保 OJダイアリーを用いた指導、学習習慣を身につけるための学習支援	行事、授業、評価、クラブ活動などのあらゆる教育内容の点検見直し 学力・学習習慣の確立、生徒の主体的取り組みのための授業時間確保 OJダイアリーを用いた指導、学習習慣を身につけるための学習支援	JS責任者会議 支援教育委員会 保健・生活指導各委員会	中学学習支援生徒への受益者負担、 校内塾導入/Big Sister制度の継続 高校放課後学習環境整備 総合的探求の時間スタート	放課後プログラムの見直し 高1・2総合的探求の時間			
		生徒支援	S 主体的学習者となるための助言とサポート	各々の目標に応じた学習計画、オンライン講座の利用、ネットリ作成等の助 言・サポート	各々の目標に応じた学習計画、オンライン講座の利用、ネットリ作成等の助 言・サポート		支援教育委員会の継続 キリスト教学校教育同盟カウンセリング研究会との連携				
			JS 支援を必要とする生徒のサポート	支援教育の充実と外部機関との連携・強化	支援教育の充実と外部機関との連携・強化						
(4) 広報のコンセプト 「平和と共生の実現に寄与する生徒を育む学校」	生徒募集	Vision OJ140とIB7-8-9としての教育理念の共有	キリスト教教育・女子教育・国際理解教育を柱とする本校の教育の魅力を紹介する広報活動の見直し(縮小を含む) ① 塾・公立中学への学校案内 ② 地域説明会、evening説明会等少数者の説明会の継続実施	JS責任者会議 入試対策室	広報活動の精選(広告・印刷物・ノベルティ) 経費の見直し 効果的な塾・中学校への訪問・説明会の運営 説明会の運営の工夫						

3	部門間の連携・協働の姿 (2024年度)	地域との連携・協働 / 教育内容の充実	<p>確かな認識を養い、愛をもって社会の変革に寄与する人を育てる教育課程の発信</p> <p>UC: 自己の発見等の授業による自己形成プログラムの展開・実施</p>	<p>地域の中高生や社会人を対象にしたプログラムの展開</p> <p>UC: ADS(注②)申請のために作成したデジタルブックの活用(日英)</p>	<p>学院運営会議 UC運営会議 UCカリキュラム委員会 UC英語教育委員会 UC教務委員会</p>	<p>大学コンソーシアム大阪主催の中高生プログラムへの参画</p> <p>生涯教育・公開講座の実施</p> <p>自己形成プログラムの成果可視化検討</p>	<p>生涯教育・公開講座の充実</p> <p>自己形成プログラムの成果可視化</p>	<p>生涯教育・公開講座の充実</p> <p>自己形成プログラムの成果可視化</p>	<p>生涯教育・公開講座の充実</p> <p>自己形成プログラムの成果可視化</p>	<p>生涯教育・公開講座の充実</p> <p>自己形成プログラムの成果可視化</p>	<p>生涯教育・公開講座の充実</p> <p>自己形成プログラムの成果可視化</p>
			<p>既存連携団体の協力による地域との連携・協働の展開</p> <p>女子教育、英語教育の大阪市内外地域での展開</p> <p>地域へのアピール・自校教育の展開</p>	<p>既存連携団体との連携・協働・発展・強化</p> <p>地域の女子小学生へのアプローチ/ウキルミナジュニアカップの実施</p> <p>地域・自校教育としてのオープン展示室の開設・充実</p>	<p>学院運営会議 UC運営会議 JS責任者会議 UC地域連携委員会 教研センター</p>	<p>ウキルミナジュニアカップの継続</p> <p>オープン展示室の計画</p>	<p>オープン展示室の開設</p> <p>オープン展示室の充実</p>				
			<p>高校英語科や旧コースの生徒と大学教員や学生との交流活動の展開</p> <p>平和・人権 差別 環境 核兵器廃絶等の地球規模での課題の共有</p> <p>総合教育研究所構想及び研究員体制案を構築</p>	<p>一定の英語力を備えた大阪大学院高校生を対象に、大学の複数科目授業の受講及び単位認定の実施</p> <p>関わる人全てが参画できる学習会の設定とそれぞれの課題意識の形成</p> <p>中高生に向けての平和・人権ワークショップの開催</p> <p>教研センターのセミナー等の開催の充実</p>	<p>JS責任者会議 UCカリキュラム委員会 UC教務委員会</p> <p>UC教授会 UC運営会議 教育研究センター 法人事務局人事担当</p>	<p>大学模擬国連授業へのOJH参加</p> <p>UC実施の講演会JS参加</p> <p>UC教員との連携による新入生オリエンテーション/WS継続</p> <p>セミナーの充実</p>	<p>模擬国連授業へのOJH評価</p> <p>UC実施の講演会JS参加</p> <p>総合教育研究所での働きとして</p>				
(3) VISION OJ140、Ⅲ期中期計画に則って、部門間の連携・協働がより充実している	教職員の養成と組織開発	<p>英語教育での連携</p> <p>学院全体でのキリスト教教育の体制構築と発展・充実</p> <p>150年記念学院史編纂準備(2025年度作業開始、2033年度完成目標)</p>	<p>大学のもつリソースの共有</p> <p>総合教育研究所の機能を有する教育研究センターの充実</p> <p>学院宗教主事の構想と設置</p> <p>ボランティアセンターの構想と設置</p> <p>担当及び組織の整備</p>	<p>JS責任者会議 UC英語教育委員会 教研センター</p> <p>学院運営会議・教研センター 学院運営会議・教研センター UCキリスト教教育委員会</p> <p>学院運営会議 UC学長室広報 教育研究センター (新組織・担当)</p>	<p>ワークショップ実施</p> <p>海外進路についての連携の推進/提携校の紹介</p> <p>模索</p> <p>模索充実できるところから</p> <p>宗教主事創設模索</p> <p>模索</p> <p>UC事務局前ディスプレイ委員会の設置</p>	<p>ワークショップ実施</p> <p>ワークショップ評価</p> <p>模索</p> <p>連絡会の設置</p> <p>UC事務局前ディスプレイ 編纂委員会の開催準備</p> <p>UC事務局前ディスプレイ</p>	<p>ワークショップ評価</p> <p>総合教育研究所での働きとして 模索発展</p> <p>総合教育研究所として 宗教主事創設準備</p> <p>センター機能の設置</p>	<p>総合教育研究所での働きとして 模索発展</p> <p>総合教育研究所として 宗教主事の創設</p> <p>センター機能の設置</p>			
		(1) 女性が働くための課題と職場環境の充実	教職員の養成と組織開発	<p>JS: 職場環境の整備と働き方改革の構築</p> <p>①教職員の有給5日以上の取得及び、閉館時間・閉館時間の厳守</p> <p>② 行事の在り方の見直し、</p> <p>③ クラブ活動の顧問の在り方の見直し</p>	<p>教育内容の量より質への転換とそれに伴う教職員の働き方改革の構築</p> <p>①教職員の有給5日以上の取得及び、閉館時間・閉館時間の厳守</p> <p>② 行事の在り方の見直し、</p> <p>③ クラブ活動の顧問の在り方の見直し</p>	<p>JS責任者会議 法人事務局</p>	<p>校舎閉館時刻の徹底</p> <p>教員立ち番等の廃止</p> <p>学習と行事がともに成果を上げる行事改革</p>	<p>教員の学ぶ時間の確保</p> <p>クラブ活動日と時間/指導者・引率者・責任者の考え方の検討/種類・数の精査・削減、リニュアル</p>	<p>総合教育研究所での働きとして 模索発展</p>		
				<p>UC: 職務内容の見直しと効率化</p> <p>法人: 性別に捉われない働きやすさを感じる環境への転換</p> <p>教職員の自主的活動の推進</p>	<p>教員: 活動状況の自己点検・評価により、教員個々の教育・研究活動の充実と向上</p> <p>職員: 自己点検による職務内容の効率化と見直しの実施</p> <p>業務チームの活性化</p> <p>業務システムの変革</p> <p>祈禱会や自主的学習会の活動支援</p>	<p>UC運営会議 UC総務部 法人事務局</p> <p>法人事務局 総務・人事担当</p> <p>教育研究センター</p>	<p>教員の自己点検</p> <p>職員の自己点検スタート</p> <p>職員の自己点検</p> <p>コンセンサスのとれた業務仕分けの実施</p> <p>ダブルアサインとマルチタスク化の推進</p> <p>ICT及びキャッシュレス化の推進</p> <p>業務一元化の推進</p> <p>同検討</p> <p>活動支援・参加</p>	<p>教員の自己点検</p> <p>職員の自己点検</p> <p>業務の平準化完了 同完了</p> <p>総合事務センターの設置</p> <p>総合教育研究所での働きとして</p>			
<p>JS: 教職員のモチベーションの向上と生き生きと働ける職場環境づくり</p> <p>次世代の管理体制の見直し</p> <p>UC: 教員: 数次にわたるカリキュラム改定において通底する本学の教育理念の共通理解の深化と世代間の継承</p> <p>職員: カリキュラム構築を理解し教員と協働できる大学職員の育成</p> <p>法人: 礼拝及びキリスト教教育を中心とした研修の充実</p> <p>キリスト教を基盤とした運営管理の将来構想</p> <p>教職員の制度整備</p>	<p>組織の発案を活かす自主的な学校運営の構築</p> <p>校務担当者の養成</p> <p>選挙制度による人事・制度の改善</p> <p>FD/SD(注③)の充実 ADS(注②)の充実</p> <p>キリスト教連絡会の機能強化と充実</p> <p>労務制度の整備・改革</p> <p>次世代管理職(学内理事等)の養成</p> <p>キリスト者教職員の募集及び採用・養成</p> <p>教職員の責任分担整備</p>			<p>JS責任者会議 学院運営会議</p> <p>UC・FD/SD委員会 UC運営会議 学院運営会議</p> <p>学院運営会議 キリスト教連絡会 法人事務局総務・人事担当</p>	<p>管理職等の選挙制度の検討・改善</p> <p>管理職についての考え方、共に担っていく認識の共有</p> <p>UC FD・SD実施</p> <p>機能強化</p> <p>柔軟な働き方を実現する制度整備</p> <p>ICカード導入による労働時間の可視化</p> <p>フォローアップ体制の整備</p>	<p>総合教育研究所での働きとして</p> <p>有給休暇取得率50%達成</p>					
(3) 健全な財務体質への転換	財政運営方針と5か年計画	<p>法人: 健全な財務運営の構築に方向中期計画策定(5~10年)</p> <p>財政基盤を構築する生徒・学生数の長期的な予測及び設定</p>	<p>施設計画を担保する財政基盤の確立=中長期財政計画</p> <p>退職引当資産及び減価償却引当資産の積立</p> <p>変化に対応した人件費の適正化と人事制度の制定</p> <p>寄付金収入の拡充及びその方策の検討・整備</p> <p>学校継承を担保する生徒・学生数および教職員数の計画策定</p>	<p>学院運営会議 法人事務局財務担当 募金担当者</p> <p>学院運営会議 JS責任者会議 UC運営会議</p>	<p>収支差額の黒字確保</p> <p>単年度毎積立</p> <p>多様な寄附制度の整備と推進組織の構築</p> <p>適宜修正し弾力的に対応</p> <p>UC 学生確保に向けての将来構想検討開始</p>	<p>UC 学生確保に向けての将来構想ブレ実施</p> <p>UC 学生確保に向けての将来構想ブレ評価</p> <p>UC 学生確保に向けての将来構想本格実施に向けて</p>	<p>UC 学生確保に向けての将来構想本格実施に向けて</p>				
		(4) キャンパス施設設備の維持及び新設計画	施設整備	<p>法人: 施設・設備の維持・新設計画に基づく実行 (キャンパスマスタープランの策定による)</p> <p>大規模災害に対応する施設整備</p> <p>2024年度に向けての新施設計画と目標設定</p> <p>緊急かつ優先される施設整備の実施</p> <p>マスタープランの見直しの実施(年度ごと)</p>	<p>学院運営会議 校務連絡会 法人事務局施設担当 施設関連会議</p>	<p>備蓄の充実と全体訓練の検討</p> <p>全体訓練実施</p> <p>新施設計画と運動した整備</p>	<p>UC 学生確保に向けての将来構想本格実施に向けて</p>				

No.	VISION OJ 140に掲げる運営の姿	テーマ(項目)	目標	取組み内容(行動計画)	担当	到達目標					
						2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	関連項目
				IB・MYP(注①) IB: International Baccalaureate MYP: Middle Years Programme ADS(注②): Apple Distinguished School FD/SD(注③): Faculty Development/Staff Development(教員養成/事務職員養成) UC(注④): 大学・短大 JS(注⑤): 中学校・高等学校							